

防災点検一覧表

チェック

けがの防止と行動の確保のための備え	たんす、食器棚、本棚、ピアノ、冷蔵庫などの転倒・移動防止をしている。	
	寝室や子ども、年寄りの部屋の安全配置をしている。	
	仏壇の転倒防止をしている。	
	重い物を、たんすの上や棚には置いていない。	
	転倒・落下物でドアや戸が開けられなくなるような家具の配置はしていない。	
	階段がふさがれて2階から降りられなくなるような家具の配置はしていない。	
	ガラスの飛散防止に、要所は全てカーテンをとりつけている。	
	シャンデリアなど、重い照明具の安全は点検済み。	
	家周りの堀の安全は確認している。	
火事を防ぐための備え	屋根瓦のずれ落ちがないよう確認している。	
	「火の用心」を、そのつどいつも(とくに寝る前、出かけるとき)心に唱えるようにして行動している。	
	消火器は、ある。	
	消火器は、もちろんすぐに取り出せるところに置いている。	
	消火器は、家族みんな操作できる。	
	風呂の残り湯をとっている。	
	バケツは2個以上ある。	
	地震のとき、家具類や冷蔵庫の転倒で、台所へ行くのをはばまれないように配置している。	
	ストーブは、火のついたまま移動させたり、カーテンや障子のそばに置いたりしない。	
	ストーブは、地震時、家具の転倒や移動で倒されない位置に配置し勝手に動かさないようにしている。	
	ストーブの「対震自動消火装置」の作動を、ときどき確かめ綿ぼこりがたまらないよう掃除している。	
	油料理のときはとくに、火の使用中は火をつけたままガスから離れない。	
災害時の対応の心構え	外回りに燃える物を放置していない。放火の用心は十分にしている。	
	停電時、ろうそくは使用しないようにしている。	
	いきなり大地震の揺れが襲ってきたそのとき、身の安全を守る方法を家族と話したりする。	
	身の安全を守って、それから次に何をするかを家族はみんな心得ている。	
	地震や台風などで災害が起こったときの行動を、近所の人と話し合ったりしている。	
	近所の火事の時の行動を家族や近所と話したりして、一応の心構えはできている。	
	近所のお年寄りの家に駆けつけるようにしている。	
	家のまわりや近くの「危険なところ」は、心得ている。	
	子どもの通学路の安全と危険について、実際いっしょに歩いて注意したりしている。	
	外出や勤めの家族との連絡方法や安否確認方法を、みんなで了解している。	
	防災関係機関や自治会、自主防災組織等の連絡先をメモしている。	
	地域の過去の災害のことを知っている。	
	年寄りや障害のある家族の、避難のための移動に必要な用具は用意している。	
	避難場所や避難の仕方は家族みんな知っている。	
	持病がある、通院治療を受けているなどの家族の受診について、医師とよく相談している。	
重い物の下敷きから救出するための必要な用具(パールやジャッキなど)は、ある(または手配できる)。		
負傷者は、どこに搬送するか知っている。		
救急医薬品や三角巾、副木などの医療用具などを常備している。		
副木、担架などの地域共有の緊急医療用具の保管場所を知っている。		
災害時の暮らしの維持の備え	飲み水、食べ物など数日分を用意している。	
	乳幼児、病人対象の水、食べ物の保存や交換には特に気を使っている。	
	緊急の非常持ち出し品や、避難生活への備えをしている。	
	燃料、電池などの消耗品は、十分な予備を用意している。	
	非常持ち出し品の中身は、季節や期限切れなどによって取り替えている。	
	高齢、病弱、子どものなどのための、寒冷期の暖房や保温用具、衣類などの保管を十分にしている。	
	水洗トイレの水には風呂の残り湯を利用することになっている。残り湯はいつも十分にとっている。	
医療品や救急医療品を十分に用意している。		